

海外安全対策情報  
(令和元年度第4四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第4四半期（令和2年1月～3月）の情勢は以下のとおり。

- (1) 2020年1月初旬からオロミア州西部において、州政府による反政府勢力に対する作戦行動が行われており、同時期にインターネットの通信障害が発生（3月に解除）。オロミア州政府はプロバイダーの技術的な問題と発表したが、オロミア州西部及び東部において、作戦行動及び通信規制に抗議するデモが断続的に発生。治安部隊との衝突が多発している。
- (2) アムハラ州のスーダンとの国境付近では、スーダン側の武装勢力が国境を越えて侵入して略奪などを行っており、エチオピアスーダン間の道路は断続的に封鎖されている。
- (3) 1月20日のティムカット（エチオピア正教公現祭）に際し、アムハラ州ゴンダールにおいて、襲撃事件を企てたとして、手りゅう弾4発等の武器を所持していた男2名が逮捕された。また、ディレダワにおいては若者グループと治安部隊が衝突したほか、ハラールではエチオピア正教信者とオロモ系ムスリム信者の間で衝突が発生した。
- (4) 1月28日から3日にかけて、アムハラ州全域において、デムビ・ドロ大学の学生誘拐事件の政府対応に抗議し、学生の解放を呼びかけるデモが開催されたが、平和裏に終了した。
- (5) ガンベラ州の南スーダンとの国境では、南スーダンの政府支持派と反政府勢力支持派の衝突が断続的に発生しており、エチオピア側国境の住人が巻き込まれ、被害に遭っている。
- (6) オロミア州ウェレガ地域（西ウェレガ、東ウェレガ及びケレム・ウェレガ）、グジ地域、ボレナ地域では、依然として武装集団による襲撃事件が断続的に発生している。
- (7) オロミア州とソマリ州、オロミア州とアファール州、ティグライ州とアムハラ州及びベニシャングル・グムズ州とアムハラ州等の州境沿いでは、継続的に死者を伴う民族間衝突が発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地における主な手口は以下のとおり。なお、昨年中頃から、外国人を狙っ

た複数名による首締め強盗が特に多発しているため、早朝夜間の外出は十分な注意が必要である（徒歩での外出は極力控え、近距離であってもタクシー等を利用することが望ましい）。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 空き巣事件

アディスアベバ市内の、特に外交団や外国人の住宅（マンション含む）への空き巣被害が増加している。塀のある戸建て住宅であっても、外壁沿いの電柱等から容易に侵入されるケースがある。マンションにおいては、複製された鍵又はマスターキー使用と思われる空き巣事件が多発している。エントランスに警備員が配置されていたとしても、知人を装う等の方法により容易に入館できる場合があるため、住居の選定には十分な配慮が必要である（居所の選定にあたり、警備員の対応要領等を事前に十分確認すること）。

(3) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが増加している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕を掴む等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス（乗り合いタクシー）乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車させ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(4) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

(5) 当たり屋事件

車両走行中に牛・羊などの群れに遭遇し徐行した際、飼い主が急に車両前方に近づいて来て、車両に接触した素振りを見せ横転する。その後、警察へ届け出ない代わりに金銭を要求する手口が認められる。その際、車外に出て対応に当たっているドライバーへ周囲の取り巻きが暴行を加えるケ

ースもある。

### 3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

#### (1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

#### (2) 強盗等

1月22日午後11時ころ、邦人旅行者がアディスアベバのピアッサを一人で歩行中、4人組の男に腕を捕まれて身動きを封じられ、携帯電話、旅券、財布中のウエストポーチを強奪された。

### 4. テロ・爆弾事件発生状況

上記1(3)のとおり。

### 5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

### 6. 自然災害発生事例

国内において大きな災害は発生していない。

### 7. 対日感情

3月13日、当地において初めてとなる新型コロナウイルス感染者が判明したが、それが日本人であったことから、日本人を含む外国人に対する風評被害が広がり、タクシーの乗車拒否や、歩行中に「コロナ、コロナ」と罵声を浴びせられる等の事案が多発している。

### 8. 日本企業の安全に係わる諸問題

上記7のとおり、当地において新型コロナウイルス感染者が発生し、多くの日本企業は一時的に帰国している。

今後も外国人に対する風評被害が発生する可能性があり、当地での行動には細心の注意を払う必要がある。

当地では、依然として国内全域で、強盗や窃盗等の犯罪や、道路封鎖や死者を伴う抗議活動及び民族衝突が頻発している。企業においては、常に活動地域の情勢を収集し、安全対策を講じる必要がある。